

第18回 町長定例記者会見

- 開催日時 平成30年9月5日（水）午後1時30分～
- 開催場所 遠軽町役場2階応接室
- 記者数 3人

報道機関の皆様におかれましては、日頃より町政など地域の情報を町民にお届けいただき、心からお礼申し上げます。

それでは、今回の議題についてご説明申し上げます。

■遠軽高等学校吹奏楽局 全日本吹奏楽コンクール出場決定について

8月30日から9月2日までの4日間、札幌コンサートホールKitaraで第63回北海道吹奏楽コンクールが開催されました。

同コンクールに出場した遠軽高等学校吹奏楽局が、8月30日に行われた高等学校部A編成の部で代表に選ばれ、10月21日に愛知県名古屋市で開催される第66回全日本吹奏楽コンクールへ12年ぶり9回目の出場を決めました。

この結果は、指導者の皆さんをはじめ生徒たちの努力の賜物でありますし、これも遠軽町の小学校、中学校の吹奏楽のレベルの高さが、高校へ繋がっているものと思います。

また、遠軽町立南中学校吹奏楽部についても、8月31日に行われた中学校C編成の部で代表に選ばれ、10月13日に宮城県仙台市で開催される第18回東日本学校吹奏楽大会へ出場を決めました。

これから生徒数の減少が進むことが予想される中、遠軽高等学校の存続に向けて、町も支援しているわけですが、今回の遠軽高等学校吹奏楽局の活躍により町外から下宿を利用して遠軽高等学校吹奏楽局で演奏をしたいという生徒がたくさん来ております。そのような動きにさらに弾みをつけるものになったと期待しています。

今後、名古屋市で行われる全国大会で金賞を目指して頂きたい。これについて、町として更に支援していきたいと思っております。

■平成30年第5回遠軽町議会（定例会）に提出する案件から

・補正予算について

本議会に提出する案件のうち、主なものについて申し上げます。

今回、林野庁が所有している、森林鉄道用ディーゼル機関車の購入に対する補正予算を計上しております。

購入を予定している車両は、かつて北見営林局滝上営林署や長野県上松営林署で木材輸送に使用されておりましたが、昭和50年に用途廃止となったものであります。

現在は、愛知県瀬戸市の定光路自然休養林において、鉄道遺産として展示されていたところですが、このたび、自然休養林の廃止に伴い、遠軽町へ譲渡の打診がありました。

いこいの森が管理する保存車両の中には、森林鉄道用ディーゼル機関車は無いことから、当該車両を譲り受け、今後、いこいの森の集客に繋げていくものであります。

■遠軽IC道の駅名称決定について

遠軽IC道の駅検討協議会事務局では、広報えんがる6月号、7月号及び町ホームページ等でもお知らせしていたとおり、遠軽IC道の駅の名称募集について7月20日（金）に募集を締め切り、最終的に全国から611点の作品が集まりました。

ご応募いただいた方々に対しましては、この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

締め切り後は、皆様に末永く愛され親しまれる名称を目指して、事務局や情報発信部会での選考作業を進め、8月24日（金）に開催した第15回遠軽IC道の駅検討協議会において最終選考を行い、名称の最終案を検討協議会委員で協議の末、満場一致で「遠軽 森のオホーツク」に決定いたしました。

名称の意味としましては、オホーツクと言えば海のイメージが強くある中で、海に流れ込む川の始まりは山であり、オホーツク管内の内陸に位置し広大な森林を抱える遠軽町は、豊かなオホーツクを創り出す「森のオホーツク」であるとともに、隣接するえんがるロックバレースキー場と一体となる道の駅は、年間通して楽しめる森をステージとしたテーマパークと考え、そこから地域の魅力あふれる飲食や体験、オホーツクの玄関口として観光情報などを提供することで、「ゲレンデと遠軽とオホーツクの魅力を発信する道の駅」のコンセプトを体現するというごさいます。

なお、今回最終案として決定した道の駅の名称につきましては、今月開催の定例町議会に提案する施設設置条例に反映するとともに、今後、国土交通省に対する道の駅の登録に合わせて、正式に名称として申請するものごさいます。

■いわね大橋損壊に伴う対応について

湧別川に架かっております道道遠軽芭露線の「いわね大橋」が大雨により損壊し、車による橋の通行ができなく周辺住民のみなさんには迂回を余儀なくされており、生活や経済に影響を与えております。

橋の復旧までに最短でも2年と長期間にわたることから、高齢者の通院等の今後の負担増を踏まえ、高齢者のりもの乗車助成事業及び重度身体障害者交通費助成の対象者で、通行止めにより影響がある地区にお住いの皆様には、助成券の追加交付を行うほか、今後におきましても様々な角度から検討をしてまいりたいと考えております。

なお、北海道に対しまして、一日も早い復旧を要望して参ります。

また、いわね大橋の一部沈下による、上水道及び下水道の橋梁添架管への影響につきましては、橋の沈下部で添架管が湾曲したものの破損は見受けられず、運用に支障のないことを確認しておりますが、万一の破断及び今後実施するいわね大橋復旧工事に備え、7月20日に添架管の使用を中止する応急対策を完了したところです。

応急対策のうち上水道につきましては、東町及び南町地域において断水や水量不足とならないよう、国道242号遠軽橋と町道市街地40号いわみ橋を添架している2つのルートからの給水に切替えております。

下水道につきましては、今年度、供用開始する予定であった歩道橋添架管ルートに切替える応急バイパス工事を行ったところであります。

今後は、いわね大橋の復旧工事にあわせて上下水道の橋梁添架管復旧に取り組んで参ります。

■姉妹都市ブラジル・バストス市訪問報告について

7月11日から20日まで、私をはじめ5人の訪問団が、町の姉妹都市であるブラジルサンパウロ州・バストス市を訪問しました。

これは、バストス市入植90周年を迎えるに当たり、入植祭である「卵祭り」に合わせて開催される記念式典や祝賀会への招待を受けて、平成4年以来26年ぶり（姉妹都市盟約後、町長訪問は初）に公式に訪問したものです。

バストス市は、サンパウロ市から車で約8時間かかり、北西に約560キロメートル離れた人口約2万人の小都市で、行政面積は170.5平方キロメートル（遠軽町の約8分の1）。街並みは区画整理されており、高層建築物も少なく閑静な環境の良い住宅地が広がっています。

1929年（昭和4年）に日本人移住地として開発され、戦前は9割以上だった日本人（日系人）の割合も今では、1～2割程度になっています。

また、ブラジル最大の鶏卵の産地（国内消費の約20%を生産）であり、世界一と言われる生糸の生産地としても有名で、その多くを日系企業が担っています。

今年の「卵祭り」には、養鶏に関する最新農業機器等の展示をはじめ、たくさんのお店と仮設の遊園地が設置され、3日間で12万人もの人が来場し、大変なにぎわいを見せていました。

また、メインステージでは、日系人グループによる和太鼓演奏、カラオケ大会では小さな子供たちが日本の童謡を歌うなどまさに日系文化が根付いているお祭りでした。

私たち訪問団は、同市で行われた入植90周年式典及び祝賀会、訪問を記念する石碑の除幕式と記念植樹、「卵祭り」オープニングセレモニーなどに出席するとともに、バストス商工会、信太農場、ブラタク製糸工場、市立病院を視察するなど精力的にバストス市との交流を図ってきました。

さらにブラジル国内を移動し、ロンドリーナ市、フォスドイグアス市、サンパウロ市及びサントス市を訪れ、日系企業の視察や現地北海道人会、経済界などと会合を持ち、交流を深めてきたところです。

町と市の交流は、1971年に当時の信太隆治町長の親戚に当たる信太茂バストス副市長が遠軽を訪れたことが契機となり、1972年に姉妹都市盟約を結んでいます。

北海道内でブラジル国内に姉妹都市を持つのは本町だけであり、今回の訪問において血縁による姉妹都市交流の意義を再確認しますとともに、ブラジル・バストス市の現状を知るうえでも、大変意義のある訪問になったものと考えています。

■観光イベント等について

8月26日（日）から10月8日（月・祝）までの期間中、太陽の丘えんがる公園虹のひろばで、コスモスフェスタ2018を開催しております。

昨年は、長雨の影響によりコスモスの成長、開花が大幅に遅れて見頃を迎えないという状況でしたが、今年は順調に成長し、今後、見頃を迎えるよう期待しているところです。

9月9日（日）には、コスモスフェスタイベントを実施しますが、今年のコスモスコンサートは、ゲストに瀬川瑛子さん、酒井法子さん、松原健之さんをお迎えして行います。そのほかにも、大声コンテスト、ヒップホップダンス、エア遊具等のイベントを行います。

秋のひとときをぜひ会場でお楽しみいただきたいと思います。

また、石北本線利用促進イベント連携事業として、コスモスフェスタにJRで行くとイベント会場で使える、お買い物チケット千円分がもらえるキャンペーンを実施しています。

さらに、石北本線利用促進の取組みとして、オホーツク圏活性化期成会主催による遠軽町の車内販売が9月15日、16日、24日、29日の4日間実施され、地元で作られた菓子、パンなどの特産品を販売して遠軽町をアピールしていきたいと思っております。

これらの事業により、石北本線の利用が促進されることを期待いたします。

次に、今年で開館20周年を迎えるやまびこ温泉では、日頃のご愛顧に感謝して9月15日（土）正午から（午後5時まで）、施設内外の特設会場におきまして、記念事業を開催いたします。

記念事業では、オリジナルのピザづくりや、雨宮ラーメンの大食い大会、その他縁日や屋台コーナー、ジオパークの体験ブースなどの出店も予定しております。さらに記念イベント当日から2か月間で、やまびこ温泉のスタンプを10個集めると抽選で「年間入浴券」などが当たるスタンプラリーを開催しますので、紙面でのPRをお願いいたします。

また、雨宮21号は、今年で生誕90年の節目を迎えます。このため、(町の主催により)通常の運行期間ではない12月8日・9日の2日間の日程で、雪原を走る卒寿記念特別雪中運行を行います。詳しくは、後日詳細をお知らせいたします。

次に、今年で32回目となる北海道最大の自転車ロードレース「ツール・ド・北海道2018」が開催されます。

競技最終日の9月9日(日)第3ステージレースで当町を通過する予定で、この日は午前9時30分に北見市をスタート、その後訓子府町、置戸町、北見市留辺蘂を経て、当町4地域の一般国道を通過し、隣町の上川町、愛別町、最終地点の当麻町へゴールする177キロのレースとなります。

このレースには、UCI(国際自転車競技連合)登録を含む海外チーム6チーム、国内チーム15チームの計21チーム105名の選手が疾走します。併せて、一般サイクリング愛好者が参加する市民レースも同時開催され、当町からは丸瀬布総合支所前から「市民レースA」、白滝総合支所前から「市民レースB」がスタートし、合計300名以上の選手が参加します。

当町としては、この大会に対し遠軽サイクリング協会及び一般ボランティアの協力を得ながら、コース内の国道交差点に立つ「コース整理員」を配置し、大会が安全に開催されるよう協力して参ります。

次に、9月17日(月・祝)、遠軽町武道館で、講師に合気道国際平和交流倶楽部会長である今村樹憲師範をお招きして、合気道演武会・講習会を開催いたします。

合気道ゆかりの地である遠軽町で、実際に合気道を体験できる貴重な機会ですので、たくさんの方の参加をお待ちしております。

また、9月20日(木)、遠軽町福祉センターで、第2回企画展「松浦武四郎『由宇辺都誌』を辿る旅展」の関連イベントとして、シンポジウム「郷土史の保存と歴史観光への活用に向けて」を開催いたします。

シンポジウムでは、遠軽町出身でアニメーターの安彦良和氏、北海道博物館学芸員の三浦泰之氏、元帯広百年記念館館長の北沢実氏の3名を講師としてお招きし、地域の歴史や文化保存とその活用方法に関する講演を聞きながら、町を訪れた方々に郷土史を通じて地域の魅力を伝える方法を考えますので、ぜひお越しください。

■ JR北海道路線見直し問題について

昨日(9月4日)旭川市で、JR北海道の路線見直しの会合が、石北線、宗谷線、富良野線、根室線の沿線45市町村の首長や国土交通省、北海道、JRの担当者が集まり開催されました。

会合では、国がJRに対して2019、2020年度に行う支援と同水準の財政負担を自治体側に求めました。今後、誰がどう負担していくか、みんなで知恵を出して乗り切って行かなければなりません。

国土交通省は、輸送密度200人以上2千人未満の8区間に対し、2年間で400億円台の財政支援を行う旨の説明がありました。

国に対して地方創生というなかで、我々をどう見ているのか、加藤剛士名寄市長が全国一律のルールでなく、北海道の自然環境など特殊性を踏まえてほしいと言っていました。

都市部に比べ、距離間も違うし人口密度も違う、しかし、これだけの広大な土地や豊かなオホーツクの海があるから農産物を都市部へ送れるわけです。人口密度が高ければ出来ません。JR北海道は、2年間の取組みに向けてコスト削減に取り組むアクションプラン(行動計画)を取りまとめたいと国に対して協力を要請していました。

私たちは、JR路線の存続に向けて知恵を出し、汗を流し努力していかなければなりません。